

所信

一般社団法人東海青年会議所
2023年度 理事長 松田 隆司

はじめに

私が、この一般社団法人東海青年会議所の門を叩いたのは2011年、今も記憶に残る東日本大震災のあった年です。世の中は復興機運が高まっている中で少し他人事として捉える人も多い中、世の中、まち、子どもについて真剣に議論をしている先輩方の姿に、心打たれたことを鮮明に覚えています。

しかし、入会当初は、社業の繋がりを求め、自分本位に活動しておりました。入会後は同期や先輩方にも恵まれ、多くの繋がりが出来るだけではなく、こんな私でも活躍できる場所を与えていただきました。また、出向の機会にも恵まれ、東海市だけでなく、愛知や日本の各地域が持つ魅力について理解する機会をいただき、これまで多くの方々に支えられてきた青年会議所活動での経験は、私の財産となっております。

組織の機動力がまちのけん引力へ

障がい者、ひとり親など従来から生活弱者と呼ばれ、様々な理由で私生活を制限されている人たちが存在しますが、誰にでも幸せになる権利はあります。私もその一人でありました。しかし私は、夢を持ち続け、挑戦し続けました。だからこそ思う、地域の活性化とはこの地に住まう全ての人々が夢を持ち、皆が自身の人生に日々挑戦している集大成ではないかと。

2020年からは新型コロナウイルスにより様々な行動が制限される日々が続き、生活様式も、経済面も大きな転換期を迎え、先行きが不透明な状況が続いている中で多くの人々や企業、団体が苦境に立たされております。しかし、我々東海青年会議所は、その逆境の中でも希望を見出し、挑戦してきました。この組織が今何をすべきなのか。笑顔の絶えない日常を創出するためには、率先して行動を起こし、運動を展開する必要があります。先人は「新日本の再建は我々青年の仕事である」と戦後の荒廃から日本の復興と明るい豊かな社会の実現を目指し立ち上がりました。今新たな国難が目の前に広がり、いかなる困難が降りかかろうとも、我々が魁となり率先して行動し、挑戦し続けます。そしてその挑戦の先には、我々東海青年会議所メンバーによって築き上げられた、笑顔の絶えない持続可能な社会が待っていることと確信をしております。

原理原則に応用する組織運営

どのような情勢においても、組織の基礎が強固であれば、ブレることなく目的を果たせていくものだと考えております。どれだけ地域にインパクトを与える事業を構築しても、その基礎が軟弱では、持続可能なものにはなりません。青年会議所運動において組織の根幹を担う運営が重要であり、ニューノーマル時代においても、凡事を徹底し能動的に行動することで、組織の応用力を高めた各会議・総会運営を可能とすることが出来ます。固定概念にとらわれず、柔軟に発想の転換を行い、時には諸規則を変更することも視野に入れることで、時代に即した組織の基礎を固めることができ、心理的安全性の高い組織となります。

メンバー一人ひとりの個性を受け入れ多様な価値観や能力を認め合いながら、事業を構築することで、創造性に富んだイノベーションが生まれる組織になります。また、ありのままの自分を受け入れてくれる環境を整えることで、安心感や自己肯定感を高め、組織へのエンゲージメント向上へと繋がります。

子どもの数だけ夢がある

私の子どものころは無茶苦茶な夢を話しても大人たちは笑顔で応援してくれていたと記憶しています。今も昔も、子どもたちが夢を語るころには笑顔が集まります。現代社会はインターネットの整備が進み便利になった反面、情報過多の状況でもあり経験なくしても我がものとする傾向があります。我々が子どもに実体験を積んでもらえる機会を提供し強烈な原体験をしてもらうことで、自身に多くの可能性を見出してもらい、一人の子どもの中にも多種多様な夢があつていいことを知ってもらいたいと思います。我々の所属している青年会議所は、世界 110 ヶ国以上に存在し日本全国にも 691 の LOM があります。各地の青年会議所や他団体とパートナーシップを結び、各地域の子どもたちと積極的に交流し、共に学ぶことで、子どもたちに多くの経験を与え、多くの見聞を広めてもらいます。そのいろいろな経験から多岐にわたる子どもたちの夢を醸成し、笑顔のあつまるまちの一助となる事業を展開します。

強い組織になるために

私が入会した 2011 年には 97 人いたメンバーも今は 42 人と半数以下となり危機的状況がずっと続いています。しかし各地青年会議所を見ると純増しているところもあります。東海青年会議所が 55 年間歩んできた歴史を未来へとつなぎ、さらに大きな運動を起こすためには会員拡大が最も重要であります。私たち一人ひとりが、

青年会議所活動に魅力を感じ、価値を見出せば、自ずと身近な知人・友人に声をかけ、共に活動のできる、強くてしなやかな組織になるでしょう。これからの時代に即した柔軟な組織運営をしていくことで、女性も若者も活躍できる魅力ある団体となり、地域に必要とされる団体になるはずです。青年会議所の出向制度を積極的に活用することで地元のみならず、県内、地区、全国、全世界の多くの仲間に出会えるチャンスがあります。この新たな出会いこそが青年会議所活動の最大の魅力であります。40歳までの限られた時間を有効活用し、一步踏み出し、自主的に活動する事で、人生においてかけがえのない経験の機会を提供出来るとお約束します。

55周年を迎えるにあたり

一般社団法人東海青年会議所は、1969年6月29日に410番目のLOMとして創立されました。それ以来54年間、諸先輩方が地域と未来への想いを胸に、伝統と歴史を脈々と築き上げられてこられました。54年間という歴史の中には、個人が役職・立場を全うし、そこで培われてきた経験は今を生きる現役世代に連綿と受け継がれております。我々東海青年会議所が運動を続けていくことができたのは、愛知県内32会員会議所や友好JCの皆様による多大なるサポートや地域の皆様のご理解、ご協力の賜物です。諸先輩方への想いと関係者皆様への感謝を胸に刻み、今年東海青年会議所は創立55周年を迎えます。創立55周年に際し記念事業を構築いたします。55年間の歴史を改めてひも解く機会を創出するとともに、60周年、70周年、そして100周年へ向けた礎となる年と致します。また、55周年は、過去に連携協働を図った関係各所と、より一層の関係構築を図り、例年ではなし得ない東海青年会議所最大の運動発信の場とすべく事業を構築してまいります。より地域社会へインパクトを与えられる絶好の機会と捉え、改めて東海青年会議所の存在意義を地域へ発信致します。

むすびに

みんなで活動するから一人では経験できない感動や達成感を得ることが出来ます。成功ばかりではありませんが、失敗を検証し引き継いでいく事で団体を成長させ自身の成長とすることが出来ます。それは、実体験でしか得られない貴重な経験です。我々の運動の一つ一つが市民の皆様の意識の一端となり、そしてその意識の積み重ねがこのまちにイノベーションを起こすと確信をしております。青年会議所メンバーが運動を推し進めたその先には、地域に住み暮らす市民（ひと）が、自分たちの東海（まち）を良くしようという意識を高め、このまちが、持続可能な豊かな未来へ繋がるかと信じます。私は第55代理事長として、一会員として、感謝の想いを覚

悟に変えて青年会議所運動に邁進することをお約束します。そして関係していただいている全ての人に変わらぬご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。